



特定非営利活動法人／NPO法人
放送批評懇談会

第2回通常総会議事録

- 第一号議案 議長の選任
- 第二号議案 NPO法人放送批評懇談会 2005年度事業報告
- 第三号議案 NPO法人放送批評懇談会 2005年度収支決算
- 第四号議案 NPO法人放送批評懇談会第2期第3期役員
- 第五号議案 NPO法人放送批評懇談会 2006年度事業計画
- 第六号議案 NPO法人放送批評懇談会 2006年度収支予算

放送批評懇談会

2006年6月17日



特定非営利活動法人放送批評懇談会

< 2回通常総会 >

■開催日 2006年6月17日

■会 場 東京厚生年金会館 錦Ⅱ

■会 勢 <正会員>
183名 (入会10名、退会11名)
<維持会員>
122社 (入会3社、退会5社)

■出席者 33名
諫山 修 石井 彰 石井清司 石橋さや夏
入江たのし 岩本太郎 小田桐 誠 音 好宏
兼坂諦一 隈部紀生 坂本 衛 志賀信夫
嶋田親一 島野功緒 清水英夫 鈴木典之
田代勝彦 田中惣二 田中典子 永田俊和
中村登紀夫 橋本 隆 原由美子 深井教雄
深川 章 藤田真文 藤久ミネ 星島節子
堀木卓也 松尾羊一 松本恭幸 望月正義
山家誠一

■委任状提出者 67名

■出席者と委任状提出者で計100名



第一号議案 議長の選任

定款第27条「総会の議長は、その総会に出席した正会員の中から選出する」の規定に則り、出席の正会員のなかから「原由美子氏」を合議により選任。

第二号議案

NPO法人放送批評懇談会

2005 年度事業報告



2005年度総務事業報告

1. 2005年5月2日法務局に登録し、正式にNPO法人(特定非営利活動法人)として発足しました。これにともない、6月25日の通常総会で、放送批評懇談会の任意団体の解散が決議されました。
2. 「ギャラクシー賞マイベストTV賞」を設立しました。NPO法人として、視聴者・市民とのつながりを深めるために2006年1月から「放懇Web会員」の募集を開始しました。登録者は、200名を超え(2006年5月現在)、2006年4月度より投票が始まっています。
*プロジェクトリーダー・滝野俊一　メンバー・仮屋和則
　　桧山珠美　アドバイザー・藤久ミネ　事務局・久野明
3. ホームページをリニューアルしました。デザインを一新し、正会員のプロフィールを掲載、また時々のニュースを発信しています。総会、理事会の議事録も公開し、広く情報開示を行っています。
*ホームページプロジェクト・座長・兼高聖雄
4. NPO法人として、個人情報保護法などの法的な対応に着手しました。また事務局職員の「就業規則」も作成しました。
5. 「モバイル放送」の“ギャラクシーアワー”は、2005年9月で終了しました。
6. 外部にパートナーを求め、連携する「視聴者番組機構」(仮称)の設立は、実行に至らず引き続き検討課題とします。



2005年度出版編集事業報告

1. 下記のメンバーで運営しました。

委員長 小田桐 誠

副委員長 伊藤洋子 津田浩司

委員 石橋さや夏 入江たのし 岩根彰子 岩本太郎
小林潤一郎 齊藤正道 田北康成 谷口和巳
平井 景 遊佐百佳

2. 毎月6日に「GALAC」を発行しました。

①「GALAC」ならではの特集テーマに臨機応変に取り組みました。

反響が大きかった特集は次の号でした。

2005年10月号 戦後60年と放送

2006年2月号 名古屋コンテンツが元気

2006年3月号 格闘技中継が燃えている

2006年4月号 どうする!?NHK改革

2006年6月号 これこそTVキャスターだ!

②番組批評欄「マイ・ベストTV」は同名の視聴者・市民参加型の新たな賞の創設により「TVベスト&ワースト」にもどしました。

③発行部数は約4000部と横這いでしたが、神楽坂の文悠書店での直販のほか、法政大学多摩キャンパスでの面出し販売に努めました。同生協書籍部では取次から毎月10冊仕入れ、5から7冊の販売実績を挙げました。

④ネット書店「富士山マガジンサービス」との提携によりネット上での販売拡大に努めました。

⑤大胆な現地取材を展開した2006年2月号がありましたが、全体的には取材編集費、原稿料などの低減に努めました。



2005年度選奨表彰事業報告

1. 本年度は下記の委員の構成で運営しました。

委員長 藤久ミネ

テレビ部門委員

(テレビ委員長・藤田真文、副委員長・諫山 修)

麻生千晶 諫山 修 岩根彰子 金山 勉 兼高聖雄
川端美樹 小林 毅 鈴木典之 中町綾子 丹羽美之
桧山珠美 深川 章 藤田真文

ラジオ部門委員

(ラジオ委員長・入江たのし、副委員長・伊藤 稔)

石井 彰 伊藤 稔 入江たのし 大沼悠哉 加藤吉治郎
鎌内啓子 茅原良平 斎藤弘美 谷 朝美 橋本 隆
藤田恒美 堀 義貴 三原 治

CM部門委員

(CM委員長・野田慶人、副委員長・鈴木ゆかり)

石橋さや夏 木村政司 五井千鶴子 鈴木ゆかり
高橋俊明 谷岡理香 永田彰久 西口芳美 野田慶人
本庄雅之 諸橋泰樹 山川浩二

報道活動部門委員

(報道活動委員長・音 好宏、副委員長・市村 元)

市村 元 音 好宏 小玉美意子 古西 洋 鈴木嘉一
茅野臣平 福島俊彦 藤久ミネ 堀木卓也 宮前周司
選奨事業委員会担当事務局 福島美子

2. 第43回ギャラクシー賞各部門の選考のため、以下の作業を行いました。

〈テレビ部門〉

- ・2005年4月から2006年3月まで、毎月選考会を開き月間賞4本を選びました。
- 選考結果を「GALAC」誌上に番組一覧表および合評形式で発表しました。毎月20日を情報解禁日とし、月間賞の選考結果をプレスリリースしました。



- ・ 2005年9月14日から29日まで、10月12、13、14日に、第43回上期自薦作品114本を視聴。10月29日、月間賞（23本）と自薦作品の中から上期入賞作品7本を選出しました。
- ・ 2006年3月16日から30日まで、4月11、12、13日に第43回下期自薦作品104本を視聴。4月22日、月間賞（24本）と自薦作品の中から、下期入賞作品7本を選出しました。同時に特別賞、個人賞も選びました。

〈ラジオ部門〉

- ・ 2005年4月から2006年3月まで、毎月ラジオ委員会を開催してラジオについての合評を行いました。
- ・ 2005年10月、第43回上期自薦作品を聴取し、10月24、25日に各部門の上期候補作品を選出。
- ・ 2006年4月、下期自薦作品を聴取し、4月18日に各部門の下期候補作品を選出。
- ・ 4月25日、上期下期をあわせた候補作品の中から入賞作8本を選出し、DJパーソナリティ賞も選出しました。
- ・ 6月18日に受賞作品を聴く会を開催しました。

〈CM部門〉

- ・ 3か月ごとにCMの視聴合評会を開催しました。
- ・ 2005年10月24日、上期自薦作品を視聴し、13本の候補作品を選出。
- ・ 2006年4月19日、下期自薦作品を視聴し、13本の候補作品を選出。上期下期あわせた中から13本の入賞作品を選出。

〈報道活動部門〉

- ・ 2005年10月8日、上期自薦作品を視聴・聴取し、3本の候補作品を選出。



- ・ 2006年4月16日、下期自薦作品を視聴・聴取し、4本の候補作品を選出。上期下期合わせた中から6本の入賞作品を選出。

- 3. 2006年5月31日（水曜日）、ウェスティンホテル東京ギャラクシールームにて「第43回ギャラクシー賞贈賞式・記念の宴」を開催しました。
なお、実行プロジェクトメンバーは次のとおりです。
石橋さや夏、岩根彰子、岩本太郎、小田桐誠、兼高聖雄、
仮屋和則、小林英美、坂本 衛、嶋田親一、高橋克佳、
滝野俊一、永田俊和、桧山珠美、三原 治／中島好登。
出席者の内訳は、有料約300名、招待約300名、合計約600名でした。



2005年度企画開催事業報告

1. 本年度の企画事業委員会は、下記の委員で構成しました。
委員長 隈部紀生
副委員長 滝野俊一
委員 小針俊郎 佐藤 勉 清水孝雄 隅井孝雄
千田利史 西 正 原由美子
2. 2006年3月15日(水曜日)、放送批評懇談会シンポジウム2006「放送のデジタル新サービスと文化」を、ホテル ルポール麴町で開催しました。
今回は文化庁長官の講演の後、ケーススタディとして「ブロードバンドと放送」を取り上げ、放送、通信の両分野でブロードバンド配信を先導する2人のリーダーの体験や今後の展望を伺いました。続いて、近々放送を始めるデジタルラジオについて業界トップ・リーダーの話伺い、最後に開始まで半月に迫った「携帯向けワンセグ開始前夜」についてパネルディスカッションを行って現場のリーダーの生々しい報告を聞きました。
今回は午後だけのセッションにし、会費も一般会員で1万円下げて1万9000円としました。参加者は235名で2005年より63人増えました。
シンポジウムの会場では、今後の企画の参考にするためアンケート調査を行いました。
3. 2005年にNPO法人として再出発したことを受けて、放送と視聴者との関係をより一層考えていく企画「デジタル時代の視聴者像」をシリーズで実施することとし、第1回として「デジタル時代の視聴率と広告」を2005年10月7日にアルカディア市谷・私学会館で開催しました。参加者は59名でした。

第三号議案

N P O法人放送批評懇談会

2005 年度収支決算

収 支 計 算 書

平成17年5月2日～平成18年3月31日まで（単位：円）

科目	予算額	決算額	差異
I. 収入の部			
1. 会費等収入			
会費収入	2,496,250	2,185,250	311,000
維持会費収入	37,613,000	37,062,000	551,000
2. 事業収入			
選奨表彰事業収入	21,030,000	24,729,300	△ 3,699,300
企画開催事業収入	3,000,000	4,657,000	△ 1,657,000
40周年記念収入	0	41,000	△ 41,000
3. その他の収入			
出版編集事業収入	3,740,750	2,778,729	962,021
広告料収入	7,380,000	7,514,000	△ 134,000
番組収入	180,000	315,000	△ 135,000
4. 雑収入			
受取利息	0	222	△ 222
当期収入合計	75,440,000	79,282,501	△ 3,842,501
II. 支出の部			
1. 事業費			
選奨費	12,229,404	5,347,564	6,881,840
式典費	0	9,007,896	△ 9,007,896
企画開催費	2,500,000	2,168,286	331,714
原稿料	6,316,333	6,288,252	28,081
編集費	4,331,133	4,408,619	△ 77,486
雑誌印刷費	15,739,725	15,572,655	167,070
発送費	1,584,369	1,288,031	296,338
法人化対策費	61,910	74,554	△ 12,644
2. 管理費			
給料手当	15,499,122	15,513,605	△ 14,483
人件費	2,717,270	2,509,690	207,580
法定福利費	1,962,004	1,893,199	68,805
福利厚生費	192,420	279,617	△ 87,197
旅費交通費	694,200	618,362	75,838
通信費	1,737,679	1,015,517	722,162
資料費	875,657	1,144,897	△ 269,240
会議費	292,966	223,159	69,807
水道光熱費	236,967	227,696	9,271
事務用品費	142,538	187,548	△ 45,010
消耗品費	628,797	557,761	71,036
備品費	200,000	935,187	△ 735,187
諸印刷費	497,375	765,975	△ 268,600
広報費	479,000	821,822	△ 342,822
支払手数料	89,990	130,262	△ 40,272
賃借料	4,032,087	3,536,894	495,193
保険料	702,456	680,340	22,116
交際費	238,320	235,989	2,331
番組費	100,000	150,000	△ 50,000
雑費	858,278	501,304	356,974
諸会費	0	87,411	△ 87,411
租税公課	400,000	4,000	396,000
予備費	100,000	0	100,000
当期支出合計	75,440,000	76,176,092	△ 736,092
当期収支差額	0	3,106,409	△ 3,106,409

貸借対照表

平成18年3月31日現在(単位:円)

科目	金額		
I. 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	33,540,182		
未収入金	3,729,500		
所有物	286,625		
流動資産合計		37,556,307	
2. 固定資産			
賃借権利金等	154,485		
差入保証金	4,050,000		
固定資産合計		4,204,485	
資産合計			41,760,792
II. 負債の部			
未払金	6,287,770		
前受金	1,395,000		
預り金	534,290		
退職給付引当金	14,503,000		
負債合計			22,720,060
III. 正味財産の部			
正味財産			19,040,732
(うち基本金)			0
(うち当期正味財産増加)			3,106,409
負債及び正味財産合計			41,760,792

正味財産増減計算書

平成17年5月2日～平成18年3月31日まで

(単位:円)

科目	金額		
I. 増加の部			
1. 資産増加額			
未収入金増加額	210,500		
差入保証金増加額	50,000		
賃借権利金等増加額	120,900		
2. 負債減少額			
未払金減少額	2,111,786		
前受金減少額	5,964,500		
増加額合計		8,457,686	
II. 減少の部			
1. 資産減少額			
現金預金減少額	5,239,128		
2. 負債増加額			
預り金増加額	112,149		
減少額合計		5,351,277	
当期正味財産増加額			3,106,409
設立時正味財産額			15,934,323
期末正味財産額			19,040,732

第四号議案

NPO法人放送批評懇談会

第2期、第3期役員



第2期、第3期役員

- 名誉会長 清水英夫
理事長 志賀信夫
副理事長 音 好宏 (グラウンド・デザイン担当、選奨事業委員会
テレビ部門委員長)
専務理事 田代勝彦 (総務担当)
常務理事 小田桐 誠 (出版編集委員長)
上滝徹也
理事 石井 彰
市村 元
伊藤洋子
入江たのし
岩本太郎
兼高聖雄 (選奨事業委員会CM部門委員長)
隈部紀生 (企画事業委員長)
坂本 衛 (選奨事業委員会報道活動部門委員長)
篠原俊行
嶋田親一
滝野俊一 (マイベストTV賞プロジェクトリーダー)
永田俊和
野田慶人
橋本 隆 (選奨事業委員会ラジオ部門委員長)
藤田真文
藤久ミネ (選奨事業委員長)
堀木卓也
山田健太
監事 鈴木典之
中村登紀夫

第五号議案

NPO法人放送批評懇談会

2006 度事業計画



2006年度総務事業計画

1. グランド・デザイン（全体構想）を構築します。「放送と通信」の融合、といわれる時代を迎えて、将来の放送批評懇談会の在り方について、諸外国のNPO団体などを参考にしながら、検討を進めます。
昨年計画し実行出来なかった「視聴者番組機構」（仮称）もここに含めて討議します。
このプロジェクトは、グランド・デザイン担当の副理事長を中心に進行し、事務局がサポートします。
2. 財政基盤の確立を検討します。会費、事業収入、寄付などグランド・デザインの構築とも連動して、より強固な方策を探ります。
3. 「認定NPO法人」の取得を目指します。寄付が非課税になるなど有利になりますが、ハードルが高いのが現状です。長期的な視野から研究します。
4. ギャラクシー賞の今後の課題を洗いなおします。選奨各部門委員長、委員の交代の期を捉え、現状を分析します。4部門の連携や整合性、贈賞式の演出などについて意見交換を行います。また、クリスタルのトロフィー高騰化の問題も起きており、好調ないま、将来への布石を行います。
5. 「ギャラクシー賞マイベストTV賞」の内容を充実させます。登録者の増加、選べる候補作品を増やす、投票率をアップさせる、などの課題を解決します。
第44回（2007年）ギャラクシー賞贈賞式で、第1回目の受賞作品を表彰します。



2006年度出版編集事業計画

1. 下記のメンバーで運営します。

委員長 小田桐 誠

副委員長 岩本太郎

委員 石橋さや夏 岩根彰子 狩野慶二郎

小林潤一郎 小林 毅 砂川浩慶

田北康成 松本恭幸 山田健太

2. 毎月6日に「GALAC」を発行します。

①毎号が試行錯誤の状況ですが、特集のテーマや内容、連載など誌面の活性化に努めていきます。

②原稿内容・校正作業などに責任を持ち、クオリティアップに努めます。

③原稿料、取材費、制作費、印刷費など適正なコストを実現していますが、引き続きこれを努力します。

④NPO法人化に伴い、放送批評懇談会が関わるシンポジウムや勉強会、イベントなどと連携した誌面展開を考えていきます。

⑤理事、会員が勤務する大学の生協書籍部に「GALAC」コーナーが出来ればとかがえているところですが、各位の意見等を伺いながら、一步でも前進したいところです。

⑥発行部数は引き続き約4000部を見込んでいます。

⑦事務局と連携して、新たな出稿先の確保および販売網の拡大に努めます。



2006年度選奨表彰事業計画

1. 2006年度は下記の委員構成で運営します。

選奨事業委員長 藤久ミネ

テレビ部門委員

(テレビ委員長・音 好宏、副委員長・丹羽美之)

石井 彰 音 好宏 加来由子 古賀靖典 鈴木典之

中町綾子 丹羽美之 桧山珠美 藤久ミネ 三浦辰治

ほか若干名交渉中

ラジオ部門委員

(ラジオ委員長・橋本 隆、副委員長・斎藤弘美)

遠藤ふき子 鎌内啓子 茅原良平 斎藤弘美 桜井聖子

田中千恵 仲宇佐ゆり 西山弘道 橋本 隆 藤田恒美

堀 義貴 三國 游 三原 治 山本 索

CM部門委員

(CM委員長・兼高聖雄、副委員長・五井千鶴子)

石橋さや夏 兼高聖雄 木村政司 五井千鶴子 高橋俊明

谷岡理香 永田彰久 本庄雅之 ほか若干名交渉中

報道活動部門委員

(報道活動委員長・坂本 衛、副委員長・堀木卓也)

麻生千晶 碓井広義 上滝徹也 小林英美 坂本 衛

田原茂行 露木 茂 堀木卓也 山田健太 山室英男

選奨事業委員会担当事務局 福島美子

2. 第44回ギャラクシー賞(2006年度)の審査、ならびに贈賞式を行います。

3. 2006年度の運営方針は以下のとおりです。

1) テレビ部門の運営

近年の応募件数の増加に鑑み、委員会の強化を図るとともに、すべてのジャンルの番組への目配りを心がけます。月評会の活性化を図ることで、制作者の活力と今後の番組作りへの提言となるような日常的な批評活動を目指します。



2) ラジオ部門の運営

全国のラジオ局を大小を問わず対象とし、放送批評懇談会が主体的に番組を選択しながら、地域内で頑張っている番組を紹介し、評価していきます。基本的には、ラジオの価値向上に貢献するような新たなアイデア、新しい工夫を持った番組を顕彰し、他の制作者の指針となることを目指すことによって、結果として応募作品数も前年を確保できると確信します。そのために、月例の合評会をさらに充実させ、賞の権威意義を高めるよう委員会の運営に努力します。

3) CM部門の運営

CM部門の審査基準である「未来を示唆するCM」「サムシングニュー」について、日常の評価の中で、その具体的例示や広告制作サイドへのインスパイアがなされるように討議を深め、ギャラクシー賞が広告表現の世界で持つ位置づけを確固たるものにしたい。その中で、テレビ・ラジオのCM媒体としての価値を高めるための提言ができるような活動も考えてみたい。あわせて、若手の広告批評家の育成を視野に入れたい。

4) 報道活動部門の運営

番組のコーナーを活用する報道、長期にわたる調査報道、画期的なスクープ報道、フリーランスによる特定のテーマ報道、局としてのキャンペーン報道、複数局が参加協同する報道、系列による総力報道など、番組単位でくくることのできないテレビとラジオのあらゆる報道活動に広く目配りし、それを応援する選奨活動を行います。社会と時代の要請に留意しつつ、放送現場の実情に即したきめ細かい報道活動の発掘と評価に努めます。とりわけ、既存メディアがあまり取り上げない問題に光を当てる報道、さまざまな制約と格闘しながら信じる主張を貫く報道、既存メディアの枠組みを打破し自らの新しい可能性を追求する報道などを、丁寧に見ていきたいと考えます。巨大放送局はも

NPO 放送批評懇談会



第2回通常総会 2006

もちろんですが、地方局、独立U局、衛星局、CATV局、ラジオ局、番組制作プロダクション、フリージャーナリストなどからの応募がより活発になるよう、賞についての広報を推進します。



2006年度企画開催事業計画

1. 2006年度は、恒例のシンポジウムをはじめテーマを絞った研究会、放送をめぐるコンサルティング、アンケート調査等を企画・立案・実施します。
2. 本年度の企画事業委員会は、下記のメンバーで構成します。
委員長 隈部紀生
副委員長 滝野俊一
委員 入江たのし 大山輝夫 小針俊郎 佐藤 勉
清水孝雄 隅井孝雄 千田利史 只野 哲
原 由美子
3. 2006年末に全国の都道府県庁所在地で放送が始まり、普及の正念場を迎えるデジタル放送についての大型シンポジウムを企画立案し、2007年2月ないし3月の開催を目指します。
4. デジタル放送時代の視聴者に焦点をあてた研究調査を行い、必要に応じてフォーラム、セミナー、研究会等を開催します。
5. 放送批評懇談会シンポジウム2006のアンケート調査で、デジタル時代の著作権について取り上げてほしいという要望が強いため、今後の著作権法改正の動向を見ながら、著作権問題のセミナーないし研究会の開催を検討します。
6. 事業実施に当たっての基本方針は以下の通りとします。
 - ①会の財政を考え、当委員会の事業全体としての黒字を目指す。
 - ②ほかの委員会の企画と有機的な連動を図る。

第六号議案

N P O法人放送批評懇談会

2006 年収支予算

2006年度予算案

2006年4月1日～2007年3月31日まで（単位：円）

科目	2005年度決算 *	2006年度予算
I. 収入の部		
1. 会費等収入		
会費収入	2,389,000	2,500,000
維持会費収入	40,449,000	40,500,000
2. 事業収入		
選奨表彰事業収入	25,699,300	26,000,000
企画開催事業収入	4,657,000	3,500,000
40周年記念収入	49,000	
3. その他の収入		
出版編集事業収入	3,632,787	3,600,000
広告料収入	7,934,000	7,500,000
番組収入	735,000	
4. 雑収入		
受取利息	222	0
当期収入合計	85,545,309	83,600,000
II. 支出の部		
1. 事業費		
選奨費	6,618,160	7,000,000
式典費	9,007,896	9,600,000
企画開催費	2,168,286	2,000,000
原稿料	6,871,919	6,800,000
編集費	4,677,486	4,700,000
雑誌印刷費	16,932,930	17,000,000
発送費	1,403,662	1,500,000
法人化対策費	82,644	150,000
2. 管理費		
給料手当	16,514,483	17,100,000
人件費	2,792,420	3,000,000
法定福利費	2,131,195	2,220,000
福利厚生費	287,197	300,000
旅費交通費	624,162	650,000
通信費	1,277,838	1,250,000
資料費	1,269,240	1,220,000
会議費	230,193	250,000
水道光熱費	250,729	270,000
事務用品費	195,010	180,000
消耗品費	608,964	600,000
備品費	935,187	300,000
諸印刷費	768,600	720,000
広報費	842,822	500,000
支払手数料	140,272	150,000
賃借料	3,854,807	3,800,000
保険料	720,880	730,000
交際費	237,669	250,000
番組費	350,000	
雑費	543,026	800,000
諸会費	87,411	90,000
租税公課	4,000	370,000
予備費	0	100,000
当期支出合計	82,429,088	83,600,000

*決算額は、任意団体最終年度決算<2005年4月1日～5月1日>と

NPO初年度決算<2005年5月2日～2006年3月31日>を合算



特定非営利活動法人／NPO法人

放送批評懇談会

〒160-0022 東京都新宿区新宿 5-10-14 中村ビル 2F

Tel. 03-5379-5521 Fax. 03-5379-5510

houkon@houkon.jp <http://www.houkon.jp>